

Q-AOS Brown Bag Seminar #1 質問に対する回答

※個人情報に関わる表現等を削除させて頂いております。ご了承下さい。

質問 1:

スコット先生、大変興味深い発表でした。国を跨ぐ物流に関してはどのように対応するのでしょうか。例えば、大半のPCは市や地域の外部から輸入されます。このような状況は、自動車を例に他の多くの物品に当てはまります。使用後これらの物品の多くが廃棄物として地域もしくは国から輸出されます。それは国際的に廃棄物が増える問題に繋がっています。サーキュラーエコノミーの活発的な適用によってこのような問題がどのように変化していくと予想されますか。

この質問は持続可能性の課題の核心をつく質問で、あなたの経験豊富な背景を考慮すると驚きではありません。大変素晴らしい質問です。我々の生活は巨大な国際的サプライチェーンに依存しています。この状況は汚染、社会的不公平、資源の搾取を引き起こしています。しかし便益もあります。私はCEによって、EF Schumacherの「スモールイズビューティフル」の考え方に戻るチャンスと捉えています。地域で生産や消費が実施された場合、システムの弱点を簡単に見つけることが可能となり、生産者や消費者により責任を課すことができます。また、億単位で利益をあげている国際的な大企業に代わって、小規模な企業の恩恵を受けることができます。これは決して国際的なサプライチェーンを一切使用しないというわけではないです。ただ、生活の多くをそれら（国際的なサプライチェーン）に依存することで問題が生じており、CEによってその依存度を軽減できると感じています。より良いバランスを模索する必要があります。 —Valentine 教授

質問 2:

Valentine 教授、大変興味深い発表ありがとうございます。ご自身のキャリアの中でサーキュラーエコノミーを実施されていることに特に感銘を受けました。全てのものに良いこと・悪いことの表裏一体と思います。ご経験の中で、サーキュラーエコノミーに関する最大の欠点は何でしょうか。次世代の学者・研究者へどのようなアドバイスをされますか。

大変考えさせられる質問をありがとうございます。最大の課題は短絡的な考え方を避けることと考えております。多くの人はCEが単にリサイクルをしたら良いと考え、解決策としてテクノロジーを当てはめるだけと思いがちです。私の意見では、環境や社会環境を改良する再生可能なコミュニティを構築する必要があります。これにはテクノロジーだけではなく、革新や努力が必要になります。あなたは、高齢者の再就職の機会や社会における有意義な接点を増やすための研究をされているでしょうし、私はそれらについてもっと学びたいと思います。そのような社会的目標を念頭に置いた場合、CEはあなたの研究に役に立ちます。私は、経済成長に関しては、小規模・地域型が素晴らしいと考えています。CEの欠点としては、持続可能性問題そのものを解決するのではなく、すでに損なったダメージを軽減するものであることです。次世代の研究者には地域の抱えている問題を根本的に解決できる研究をして頂きたいです。成果として直接生活が改善することでより達成感があると思います。そう思いませんか。 —Valentine 教授

質問 3:

地方における少数の力のある企業が多数の雇用を与えている状況の特徴は何だと考えますか。大都市と地方の農村地と比較して対応はどのように変わりますか。発表ありがとうございます。これから連絡を続け、更に学び、共同研究等できることをねがっております。

大変重要なプロジェクトに関する情報共有ありがとうございます。更に情報を頂きたいです。例えばすこし幼稚になりますが、CE は地域発展に対して「となりのトトロ」的なサポートをします。地域のために人々が協力し合い、物品は地域の中で交換され、職人が名を上げ、限られたインパクトのある高品質なものを輸出することで地域へ利益を循環する仕組みになります。コメントを拝見し、現在農業における実態として、地方へ進出し、低賃金で人を雇い経済を発展させる方法は避けるべきと共通の認識をもっています。 —Valentine 教授

質問 4:

洞察力のある発表をありがとうございます。「循環」と「持続可能性」の用語にどのようなニュアンスの違いがありますか。私はもっと現実的解決方法に取り組むべきと考えます。

洞察力のあるコメントに対して、反対し、反対しようとも思いません。CE はあくまでも資源枯渇や資源抽出による汚染の影響を軽減する戦略であると私は考えています。持続可能性を増やすことができますが、持続可能性の根本的な解決方法ではないです。持続可能性を目指すなら、人口を大幅に削減し、1人当たりの消費も削減する必要がありますが、それを現在の線形経済システムや政策の中で行うと悲惨な結果をもたらします。なぜなら、SDGs1と2を達成するには、現在の（社会）システムの成長を永遠に続ける必要があるからです。繰り返しになりますがCEは持続可能性のための戦略ではなく、持続可能性を実現する戦略ができるまでの間、あくまでもすでに与えられたダメージを軽減する方法です。 —Valentine 教授

質問 5:

Valentine 教授、ありがとうございます。CE をよく資源枯渇の最小化や気候変動や温暖化といった環境問題の予防と結び付けることがあります。しかし、発表では、計画、導入の方法論へ集中していたと思います。この方法論は環境保護活動に特化したものでしょうか。もっと広い分野に適用できると思います。説明された方法論は我々がしている社会課題を解決する活動と共通するものがあります。

心のこもったコメントをありがとうございます。いつかお会いしあなたの福岡の組織の活動について話を伺いたいです。CE ネットワーク発展の一部の方法論が環境保護活動に直接適用できると思います。それは、初期段階に行う参加型のコデザインになります。環境保護活動を実施する中で、強力な既得権のみによって描かれた解決策を避けることが最大のチャレンジになることは同意頂けると思います。コデザインは包括的であるべき、かつテクノロジーが課題解決に使用される際には、人や環境に与える影響を考慮する必要があります。また私の方法論で別途適用可能なのは、能力強化や訓練へのアプローチです。専門者を育成できることから、私はただ学ぶよりも、参加者の持つ知識を活用し役割をしっかりと与えることができる、プロジェクト型アプローチを勧めます。 —Valentine 教授